

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

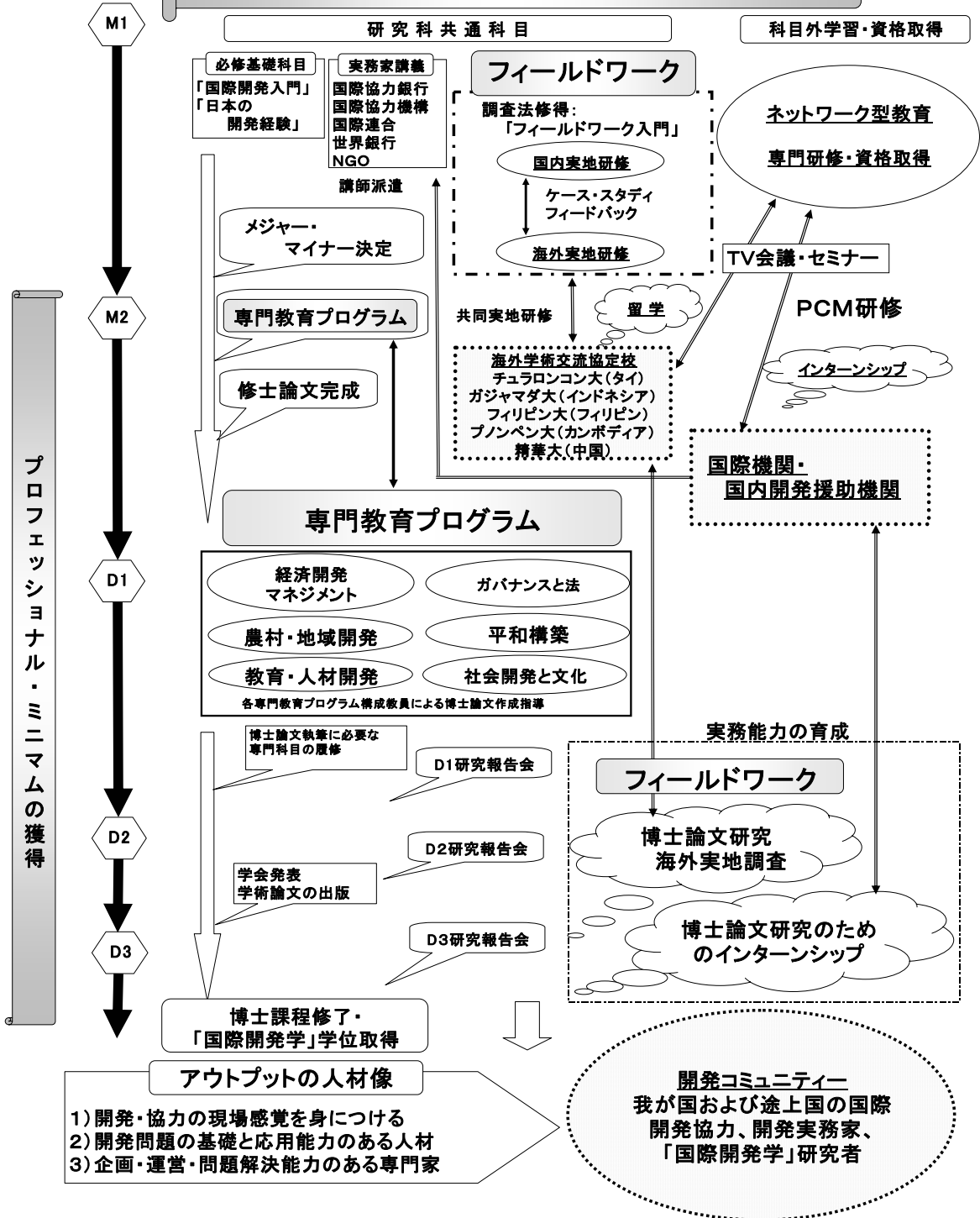
機 関 名	名古屋大学	整理番号	a013
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	国際開発分野における自立的研究能力の育成 (フィールドワーク能力強化を中心に)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 政治学、社会学、地域研究		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (国際協力論、社会調査法、地域社会・村落・都市、東南アジア、東アジア)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 国際開発研究科・国際開発専攻[博士前期課程] 国際開発研究科・国際開発専攻[博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 中西 久枝	
	(その他関連する研究科・専攻名) 国際開発研究科・国際協力専攻[博士前期課程] 国際開発研究科・国際協力専攻[博士後期課程]		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>名古屋大学は、研究と教育の創造的な活動を通じて「世界屈指の知」を創生し、「論理的思考力と想像力に富んだ勇氣ある知識人」を育てることを使命としている(名古屋大学学術憲章)。たゆまぬ努力により、豊かな文化の構築と科学・技術の発展に貢献してきた。基礎技術を「ものづくり」として結実させ、数々の世界的企業を生んだ「ひと」を育成した風土のもと、既存の権威にとらわれない自由・闊達で批判的な精神に富んだ学風をもつ。</p> <p>この学風の上に、本学は、従来の専門に基づく領域型8研究科の拡充(大学院重点化)を行った。また、国際化や環境問題など新しい問題の学際的な研究を目指し、文理融合型を中心とする5研究科(独立大学院)を新設した。「中期計画」に、「領域型分野及び文理融合型分野の専門教育の充実」を掲げ、大学院教育の実質化に努めている。</p> <p>本学は現在、大学院生の14%(平成17年度)が留学生であり、国際的な通用性をもつ高い質の大学院教育を目指している。本事業を推進するため、実績に基づく予算の傾斜配分措置など、大学としての支援を期している。</p>			

機 関 名	名古屋大学	整理番号	a013
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>実績:①留学生(35—40カ国)が学生の半数を占め、学位取得後本国で国立大学や中央・地方行政の主要なポストに就いている。②国際会議など年間30回のシンポジウムを開催し、第一線の研究者、実務家と交流している。③博士号取得率は高く、平成16年度は87%である。④カリキュラムの策定:(博士前期課程、平成18年度4月より新規に施行)2専攻の融合による「国際開発協カコース」内に6つの専門プログラムを構築し、T字型教育(国際開発分野の基礎と高い専門性を同時に備える教育内容)を策定した。⑤実践教育の推進—問題解決・自己判断・コミュニケーション能力養成のための教育手法を採用し、正規科目として海外実地研修(1992年～)・国内実地研修(1995年～)のフィールドワークを年に各1回実施している。⑥フィールドワーク手法のFD(平成13-15年度科研)を実施した。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>1. 新カリキュラム—博士前期課程—実施の準備(平成17年度)と実施・調整(平成18年度) ——カリキュラムの体系化と実践型教育の拡充——</p> <p>① <u>国内実地研修(地域おこしのフィールドワーク)</u>と<u>海外実地研修(途上国の開発問題を現地でフィールドワークする)</u>を融合し、地域貢献と国際貢献を連動させる。実施済みの実地研修成果をデータベース化し、分析する。TV会議とEラーニングによるネットワーク型授業により、日本の開発経験を途上国に、途上国の開発経験を日本の地域社会へ相互にフィードバックすることで社会に還元する。</p> <p>② 大学院生のプロジェクト管理能力・教育能力、情報提供の育成 開発計画の策定・実施能力を育成するためのPCM(プロジェクト・サイクル・マネジメント)などの各種研修や院生のインターンシップ事業を国際開発協力に関わる機関、企業、NGOと連携し、拡充する。</p> <p>2. 博士後期課程コースワーク構築に向けた教育の実質化</p> <p>① 前期課程のカリキュラムの一環としての実地研修(フィールドワーク)の事前調査及び本格調査へ、インターンとして後期課程の院生が参画することで、自立的研究・研究能力を育成する。</p> <p>② 博士論文執筆計画の精緻化、各院生の博士論文テーマに関わる個別のフィールドワーク企画・実施能力を高度化する。</p> <p>3. 複数の研究・教育指導体制の強化と教員の専門性を柔軟に活用 途上国の留学生が多く、研究・教育指導に多大な時間を要し、教員個人の負担が著しく大きいため、複数の研究・教育指導体制に移行し、各専攻を各1講座に統合し、教育の効率化を図る。</p>			

6. 履修プロセスの概念図

国際開発協力人材の育成 & 実学としての「国際開発学」研究者養成
国際開発協力コース履修プロセス

開発リテラシーの獲得



機 関 名	名古屋大学	整理番号	a013
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 918 633 949">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 965 1428 1238" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 965 1428 1142">・これまでの「開発教育」の蓄積を基に、2専攻の特徴を活かしつつ、「国際開発協力人材の育成」及び「実学としての『国際開発学』研究者養成」という明確な目標を設定し、それに沿って、フィールドワークの実施や、複数教員による研究教育指導体制の整備など、特徴的な取組が織り込まれており、実現性の面でも期待できる。 <li data-bbox="165 1158 1428 1238">・教育プログラムの実現に向けて、東南アジア言語の修得など、カリキュラムについて、更なる工夫が望まれる。 			